

# 特別支援教育だより No. 1

令和5年7月10日  
北区立王子桜中学校

いよいよ7月になりましたね。夏休みまであと少しです。突然ですが、上の棒はなんでしょう？これは、あるクラスが並んでいる時の様子を描いたものです。4月に決めた背の順ですが、月日経ってもう一度並んでみるとこのように成長には個人差があるなど感じます。標準や平均という見方もありますが、子ども達はそれぞれの速度で成長しています。視覚的に見える成長以外にも、どの子にも個々のよさがあり、少しずつ伸びています。苦手を努力し克服していくことも大切ですが、どうしても取り組めないことを「得意でカバーできることもある」と気付くサポートをしていくことが特別支援教育の考え方です。

## お子様が「困っている」と感じる時はありませんか？

学校で行う特別支援教育は、診断書や受診が必要なものとは限らず、学校生活（学習や生活）において

- ① 生徒自身が「学びにくさ」や「困り感」を感じている場合
- ② 生徒本人に困り感はないものの、大人からみて「今やるべきこと」に取り組めておらずサポートが必要な場合に、個の特徴にあったサポートを検討・実施しています。定期考査も終了し、これから夏休みに向かっていきますが、これからの時期はその困り感が表出しやすい時期です。今回はその例を紹介します。

- 集中力が続かない、落ち着けない
- コミュニケーションが苦手、言葉の指示が伝わりにくい、聞き取ることが苦手
- 「今やるべきこと」に取り組めない、スケジュール管理ができない、急な予定の変更に対応できない
- 相手の立場に立って考えることが苦手、空気を読むことが苦手
- 整理整頓ができない、必要な道具をそろえることができない など

学校がチームとして生徒の思いに寄り添いながら、校内に設置されている**特別支援委員会**で適切な手だてを検討し、対応していきます。保護者の方とも相談しながら、ケースに応じて、スクールカウンセラーや教育総合相談センターなどの機関と連携していきます。三者面談時などにもお気軽にご相談ください。

## 校内での相談窓口

学級担任はもちろん、**特別支援コーディネーター**もご相談に応じます。お気軽にご連絡ください。

<コーディネーター> 佐竹・木下

<連絡先> 03-5902-3155